文学的な文章を読み深める指導の工夫
多様な読みを引き出す課題と学び合いの場の設定を通して

中学国語班　永原和明（中学校教諭）

自己課題設定理由

＜今までの自分自身の授業から＞

文章の字面だけを追った表面的な読解指導が多く、生徒の考えを引き出す工夫がなかった。

＜生徒の実態から＞

情景描写や会話文をつなぎ合わせ、登場人物の心情などを自分なりの根拠をもって考えるような課題に対し苦手意識をもっていた。

班共通の視点：思考力や想像力、豊かな言語感覚を高める学び合い活動の必要性 → 自己課題を設定

登場人物ごとに多様な心情が想像できるような課題を通した学び合い活動

「大人になれなかった弟たちに」での実践

ヒロユキのミルクを盗み飲みしてしまう場面で

課　題

ミルクを盗み飲みした場面での「僕」「ヒロユキ」「母」の気持ちを考えよう

学び合いでの意見

・生徒は多様な読みに気付き、読みが深まった。
・学び合いを通して主題に迫る意見が引き出せた。

根拠を明確にした登場人物の心情を交流できる課題の設定と環境整備

「少年の日の思い出」での実践

最後に「僕」がちょうを押しつぶしてしまう場面で

課　題

「僕」の心のつぶやきを考えよう

教室に掲示した既習事項

・課題の工夫により生徒の活動が活発になった。
・自分では気付かなかった読みに気付き、心情を深く理解できた。

成　果

生徒は、多様な読み取り方ができるとわかり、文学的な文章を読み深める力を身に付けられた。また、一つの出来事から様々な心情が読み取れたことで、生徒の文学的な文章への興味・関心が高まった。

課　題

自由に心情を考える場面では、根拠を明確にさせる支援が必要である。また、学び合いを取り入れるべき教材を焦点化する必要がある。

担当指導主事　幼児教育センター　右井　義人